

令和 2 年度 若林図書館利用者懇談会 実施報告

- 1 日時 令和 3 年 2 月 18 日(木) 14:00~15:00
- 2 会場 若林図書館 2 階 視聴覚室
- 3 参加者 利用者 8 名
(ボランティア団体 2 名、若林図書館応援団 2 名、
若林区文化センター職員 1 名、若林区中央市民センター職員 2 名、
南小泉児童館職員 1 名)
図書館職員 3 名(館長および副館長 2 名)
株式会社ヴィアックス図書館事業本部東北営業所 1 名

4 配布資料

- ・若林図書館概要
- ・令和 2 年度仙台市図書館要覧
- ・若林図書館だより「本びより」ほか発行物
- ・「「いじめ・命」に向き合う本のリスト」ほか仙台市図書館発行物
- ・仙台市図書館パスファインダー
- ・農業連携事業・地域講座「今、見直されている伝統野菜のあれこれ」チラシ

5 内容

- 開会の挨拶、図書館側参加者自己紹介
- 指定管理者挨拶
株式会社ヴィアックス図書館事業本部東北営業所所長より、会社経営理念について説明
- 図書館の事業概要説明
館長より新型コロナウイルス感染症に対する仙台市図書館の対応について説明
副館長より令和 2 年度利用者アンケート結果と自主事業実施の報告
- ・図書館の満足度では「満足」「おおむね満足」、職員の対応も「良い」が多数を占めた。
- ・コロナ禍であっても自主事業はどれも好評であった。
- ・地域の個人、団体との協力は欠かせず、今後も地域連携を念頭に事業を展開したい。

6 懇談

参加者全員から自己紹介と併せてご意見等をいただいた。

[意見]

<若林区文化センターより>

- 「自粛」という言葉が頭から離れなかった 1 年間だったが、イベントの参加者を見ると、皆さんが楽しく過ごしている。参加者も自粛疲れをしていたのだろう。

<若林区中央市民センターより>

- 仙台市政だより(若林区版)「若林区の点描」で図書館の紹介をした。
- 震災 10 年を機に『語り継ぐ震災の記憶』(若林区中央市民センター、2014.)を増刷した。図書館にも所蔵があるが、被災地の図書館として郷土資料、震災関連資料を守り続けてほしい。
- 連携事業として恒例だった「仙台七夕に願いを」が開催できず残念だったが、次年度はぜひとも開催したい。
- 自主事業のジャンルの幅広さは、市民センターで企画する事業の参考にもなる。
- 利用者層は 60 代以上が多いように見受けられる。電子図書も話題になっているが、自身は紙媒体が馴染み深く、書棚を眺めながら図書館内を歩くことが好きだ。
- 文学碑や文庫活動団体など、本に関するスポットの冊子を作成したらどうか。

<ボランティア団体より>

- おはなし会の会場が 2 階に変更になったが、「2 階」「視聴覚室」と言われても分からない人がいる。会場が分かるように案内板を設置してほしい。
- コロナ禍でおはなし会の参加者数、内容が変わった。視聴覚室ではアットホームな雰囲気がない。
- 展示コーナーを楽しみにしている。先日のテーマ「赤い本」は非常に興味深かった。

<若林図書館応援団より>

- 排架ボランティアをしているが、2 時間程度の作業がいい運動になっている。
 - ある新聞にインターネット時代の図書館という記事があり、出版文化が脆弱化してくるとい内容だったが、何らかの対策を考えたほうがよいのではないか。図書館のインターネット時代にむけて、図書館スタッフも対応していけるよう研修等の策を講じるべきだ。
- [図書館より補足] 仙台市図書館では次年度、電子図書館導入の予算が確保できた。利用者の皆さんが混乱することのないよう、職員も電子図書館のスキルを高めてゆく。また指定管理者独自の福利厚生として、職員は電子書籍にアクセスできる環境が整っている。

<南小泉児童館より>

- 児童館では図書担当をしている。自主事業報告で触れていた人形劇のポスターを図書室に掲示していたが、児童館にしながら図書館のイベント等に触れられるのは非常にいい。
- 本の扱いについて「みんなで使うものは大切に」と伝えている。

7 閉会の挨拶

閉会の挨拶をし、閉会とした。

以上